

北海道遺産は、次世代に引き継ぐ北海道ならではの宝物として、豊かな自然、人々の歴史や文化、食べ物など有形、無形の価値の中から、道民参加のもと選定され、平成13年10月に選定した25件に加え、平成16年10月に新たに27件を選定し、計52件となりました。

日高関係分として、次の2点が選定されています。

## 静内二十間道路の桜並木(新ひだか町)

北海道開拓使長官黒田清隆が新冠、静内、沙流にまたがる地域に開設した新冠御料牧場へと続く行啓道路として、明治36年に開設されたのが二十間道路です。新ひだか町静内市街地から北東へ約7kmに位置し、幅が二十間(約36m)あることからその名がつけられました。大正5年から約3年をかけて道路の両脇にエゾヤマザクラが移植され、現在にいたっています。

過去、大正天皇、昭和天皇がいずれも皇太子時代に訪れた迎賓館である龍雲閣まで、約7kmにわたる直線道路が延び、その両側に、約3千本の桜が咲き誇る様子は壮観です。例年5月の初めに行われている「しずない桜まつり」には全国から約20万人もの観光客が訪れます。

近年では地元住民や高校生の協力により、沿道にコスモスを植える取組も行われ、桜の季節以外にも訪れる人々を楽しませています。



静内二十間道路

## 北海道の馬文化(ばん馬、日高のサラブレッドなど)

北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきました。農耕馬の力を試した「祭典ばんば」は仏原産のペルシュロン種など1トンに及ぶ馬による「ばんえい競馬」に発展しています。

力を求めたばん馬に対して、サラブレッドは速さを求めて改良が進められています。全国の軽種馬生産の約8割を占める日高地方は、北海道らしい牧場風景を作りだし、世界に誇る浦河町の「JRA日高育成牧場」では、生産・育成調教技術の研究・普及、施設の開放により世界に通用する強い馬づくりに貢献しています。

北海道和種馬(どさんこ)は、地域における物質の運搬などで活躍し、農林漁業の発展を支えてきました。

また、こうした層の厚い馬産業の存在により、鞍(サドル)やそりの製造においても、高い技術が蓄積されてきました。

最近では、大自然の中でのホーストレッキングやホースセラピーなど、さまざまな分野においても馬の活用が盛んになっています。



JRA日高育成牧場

北海道遺産概況

### ひだかの No.1

日高の世界一	二十間道路桜並木(新ひだか町).....直線延長約7km
日高の世界最大規模	日本中央競馬会(浦河町)屋内直線走路.....全長1,000m
	日本中央競馬会(浦河町)屋内坂路.....全長1,000m
日高の東洋一	北海道市場(新ひだか町)施設規模・せり上場頭数
	JRA調教センター(浦河町)施設規模
日高の日本一	軽種馬生産頭数.....約5,400頭/年 全国の約8割
	夏いちごの生産量(浦河町).....約100t
	すずらん群生地(平取町)面積.....約15ha
	ゼニガタアザラシ(えりも町・襟裳岬).....生息数約1,000頭
	日高山脈襟裳国定公園.....103, 447ha
	蓬萊山の大しめ縄(新ひだか町)全長・太さ.....130m/3.4m
	レ・コード館(新冠町)レコード収蔵枚数.....100万枚
日高の全道一	トマト生産(平取町ほか).....約12,700t(H29)
	ピーマン生産(新冠町ほか).....約2,000t(H29)
	二風谷アイヌ文化博物館収蔵点数(平取町).....20,000点
	静内川河口域オオハクチョウ飛越冬数(新ひだか町).....約200羽
	えりも黄金トンネル.....全長4,941m
	シベチャリの橋(新ひだか町)歩道橋.....全長347.2m
	風の館(えりも町・襟裳岬)風体験.....風速30m/s
	つぶ類漁獲高.....2,302t/H28全道の約30.0%
	14.1億円/H28全道の約38.2%